

行政・NPO 協働事業助成（NPO 提案型） 実績報告

団体名	中播磨心的障がい者就労支援協議会	代表者名	本條 義和
事業名	ひきこもり等心的障がい者就労支援事業		
協働の相手方	姫路市農政経済局商工部労働政策課		

事業実施実績

(1) 啓発研修

年 月 日	活 動 内 容
平成23年 4月21日	NPO 法人いねいぶる（たつの市堂本）見学 支援施設職員等 26 名が参加し、①本部、②ごはん亭だいたい、③たつの市生きがいセンター（環境管理サービス事業として清掃作業請負）、④コミュニティカフェ扉（喫茶、クッキー製造販売）、⑤日山ごはん（古民家での和風レストラン、パソコンを使つての教室および作業）等を見学した。3 班に分かれ、利用者（ピアガイド）とスタッフの案内で、見学し、様々な就労支援の形態について学ぶことが出来た。
7月12日	「障がい者の就労を支える各種助成金制度」および「職業自立センターひめじの活動」についての研修会を姫路市民会館で開催 （講師：姫路公共職業安定所雇用指導官 延東隆氏、姫路市社会福祉事業団職業自立センターひめじ主任就労支援員 宮田宗永氏） 職親、支援施設職員等 43 名が参加し、障がい者の雇用促進に関する各種の助成金制度及び職業自立センターひめじの所管業務について学んだ。
10月26日	「中播磨職親研修会」を姫路市民会館で開催 神戸大学大学院 橋本健志教授による「働く喜びを広げよう」の講演、社適訓練生、職親、キャリアサポーター、支援施設管理者等によるパネルディスカッションを実施。協議会メンバー、支援施設職員、職親、行政関係、家族等94名が参加し、就労に関する体験、考え方等を通じて交流した。
12月12日	「姫路北病院見学会・病院長講話」を「医療法人内海慈仁会 姫路北病院」で実施 協議会メンバー、福祉団体職員、行政関係、家族等 38 名が参加し、①病院の概要説明、②施設内見学、③案内していただいた職員との懇談、④院長講話等で精神医療の最新状況について研修した。
平成24年 2月13日	わーくわくねっと講演会を姫路市民会館で開催 ①神姫バス(株)常務取締役 坪田一夫氏による「地域と共に（神姫バス(株)グループの社会貢献への取組みについて）」の講演、②同社ニコパ事業課長 岡田勉氏による「TSUTAYA における施設外就労支援について」の講演、③わーくわくねっとキャリアサポーター三木章弘、大島庸男による「わーくわくねっとからの就労支援について」「同活動状況について」の報告、④社会適応訓練生による体験報告等を実施。協議会メンバー、福祉団体職員、行政関係、家族等 89 名が参加した。

(2) キャリアサポーターによる企業、行政、支援団体等への訪問

年 月 日	活 動 内 容
平成23年 4月 ～ 平成24年 3月	延べ 210 か所訪問

(3) 情報交換の為の定例会議、事務局会議の実施

年 月 日	活 動 内 容
平成23年 4月 ～ 平成24年 3月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定例会議 8 回開催 ・ (拡大) 事務局会議 9 回開催 ・ チャリティーゴルフ参加者に対し社会適応訓練事業等について説明 3 回実施

(4) 心的障がい者に適した独自事業および推進形態の検討

年 月 日	活 動 内 容
① ネット補修の作業受託	
平成23年 4月28日	マルイチ株と受託作業についての打合わせを実施
5月13日・18日	同社に支援施設の指導員が行き、各種作業を実地見学・実習して請負の可能性を探った
9月 2日～9日	姫路こころの事業団がネット補修を請負うことが決まり 6 日間指導員が同社へ出向き技術を習得した
9月16日	請負作業を開始した
11月12日	さらにスキルアップする為に 2 回目の技術指導を受けた
② 社会的就労支援センター	
平成23年 9月14日	ネクストステージ大阪の LLP 見学を協議会メンバー、行政等 9 名で実施 福祉的労働と一般就労の中間的な就労形態について研修した
10月～平成24年2月	NPO 法人コムサロン 2 1 等と若年者社会的中間就労支援センター設立に向けての検討・打合せを 5 回開催
平成24年3月	姫路市農政経済局労働政策課の協力を得てコ・ワークひめじ開設決定
③ 施設外就労	
平成24年 1月～3月	TSUTAYA 姫路広峰店で開店準備 請負業務内容 ①開店前の清掃 ②入荷書籍への付録セット ③DVD の整理整頓等々

効果と成果

- 1) 心的障がい者はその特性から長期にわたって安定して就労することは難しいことから、当事者本人、家族の苦しみは大きく、それに加えて社会的な損失も大きい。この人達が就労の機会を得て社会に適応していくことは将来的に福祉の為の社会的コストを抑える意味でも大きな意義が有る。
- 2) キャリアサポーターによる巡回は、企業側には障害についての特性の理解と接触スキルの向上、当事者側には相談者がいることによる安心感が醸成され、その為に定着が促進された。
- 3) 企業の理解が深まり、受託出来る仕事の幅が広がった。
- 4) 行政側を交えての情報交換がさらに密になり「ステップアップ雇用」等の的確な支援を受けられるようになった。
- 5) 啓蒙啓発の機会には当事者のご家族にまで出席者の幅を広げ、家族ぐるみでの支援の機運を高めることが出来た。
- 6) 一般就労と福祉的就労の中間労働の場を立上げることが出来たが、これにより社会適応訓練終了後の選択肢が増えた。さらにこれは単に障害者にとどまらず、ニート、ひきこもり等社会活動から遠ざかっていた多くの人達にも収入を得る場を提供し地域社会の一員として生きて行く力を与えることが期待出来る。

収支決算書

(収 入)

項 目	金額 (円)
行政・NPO協働事業助成金 (NPO提案型)	1,000,000
自己資金	813,061
合 計	1,813,061

(支 出)

区分	項 目	金額 (円)	左のうち助成対象金額 (円)
直 接 経 費	人件費	1,094,400	1,094,400
	事務所訪問交通費	159,710	159,710
	啓発研修費	282,250	282,250
	定期情報連絡会・事務局会議	94,300	94,300
	小 計	1,630,660	1,630,660
〈間 接 管 理 費〉	印刷費	105,631	105,631
	消耗品費	19,735	19,735
	通信費	14,100	14,100
	その他諸経費	42,935	42,935
	小 計	182,401	182,401
合 計		1,813,061	1,813,061